

1784 1785

四 五

件 番受



高級副官ノ到任ハ各島守ノ
身ヲ守リテ其ノ可ク喜見ノ事ナ
シ

明治九年八月
野呂長一 課



1784 1785

四 六

至急

Handwritten notes at the top right, including "1784" and "1785".

経目第八〇九
三校

八月六日

人事課長

主査課員

高級副官

主務副官

参事官

主務局部長

主務課長

次官

聯帶局部長

聯帶課長

主壹 第三一〇三號

廳名大 藏省

受番 件名 出二十九 年八月 日
執行

高田... 宇田... 宇田... 宇田...
宇田... 宇田... 宇田... 宇田...
宇田... 宇田... 宇田... 宇田...

子古甲一甲二方面七本署大板观吾子厥を
清一甲二甲三之甲四、甲五本海志要務部
台湾総務府海防局、法時台湾庁
信建設部、法時台湾燈標建設部
法時海防局、法時台湾道布政使部
新首砲廠、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局
法時海防局、法時海防局、法時海防局

本年より暫く下區分を悉く望方之義當り雨以反
 有りては殊に本外各年より尤も通之殊に昔外各年達
 せうしタル明治二十九年迄明細仕拂録
 美玉之内物別を各年より一般各年計上移
 者も之を分り別計し通之各年向由録了了
 本外各年計上移

三〇六〇號

八月七日

陸軍省

882T

至急

經三第 四七五號

經甲第 八〇九號

津書 校合

軍一第 三二號 八月一日

人事課長

卜査課員

高級副官

主務副官

參事

主務局部長

主務課長

大臣

次官

聯帶局部長

聯帶課長

番受

號領

五三第 三一〇三號

廳名 天 藏 省

件

名 經費區分の儀 件 大藏大臣への御回答件

提出 三九年七月 日 執行 年月 日

大藏大臣への御回答案

秘 第 四 九 一 號 以 下 臨 時 軍 事 費 特 別 會 計

歲出中本年法律第十號第三條第四條ニ據リ
 支出未済ノ豫算額ヲ明治二十九年年度ノ一般會計
 ニ移シテ金額ト同年年度豫算ニ於テ決定シタル臨時
 軍事費用ト被是混淆セサル様判然區分相立整
 理方ノ儀照會ノ趣ヲ兼右ニ申越サレ候ニ用
 取計置キ同年度決算報告書提出ノ際該報
 告書中ノ任辨命令済額ニ對シテ特別會計ヨリ
 一般會計ニ移シルモノニ係ル任辨額ト同年年度
 豫算ニ對スル任辨額トノ内譯書添付可致候
 様ノ事相成度右及回答候也

陸軍省 送甲第二四五三號

八月四日



次官ヨリ軍務局醫務局、參謀本部、第四
 師團司令部、砲兵第一方面本署、工兵第一
 第二兩方面本署、大坂砲兵工廠、第五
 師團、陸軍部、臺灣館、朝鮮館、臨時臺灣
 官信建設部、臨時臺灣燈塔建設
 部、臨時臺灣軍用水道施設部、野戰
 首砲廠、千住製絨、通商
 臨時軍事費特別會計、歲出中本年法律第十
 號第三條第四條ノ據リ、支出未済ノ豫算額ヲ
 明治二十九年年度一般會計ニ移シ、本年
 度豫算ニ於テ決定シ、臨時軍事費トシテ是

陸軍省

混淆トナル様金額判然區分相立整理取計
置ク度者大蔵省ヲ照會ノ趣モ有之候者右
様取計有之度右左通牒候也

追元既ニ合達セラレタリ月治二十九年年度研細仕拂

豫算書ノ内特別會計ヲ一般會計ニ移

シタルモノ一更ニ當有副官ヲ一由及通牒又

尔後移替ノ令明細仕拂豫算書ノ章

ノ際「移替ノ令」ト記入スルコトニ可取計候條

右様了業者之度右左令申添候也

八月四日

十五

同日ノ經理局、近衛第二第三第四師團

1792 1793

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

新印高下ノ町
二町ノ系
藤ノ仕
本
全

監督部通謀案

臨時軍事費特別會計歳出中本年法律
 第十號第三條第四條ニ據り支出未済ノ豫
 算額ヲ明治三十九年度ノ一般會計ニ移シ全
 額ト同年度豫算ニ於テ決定シ臨時軍
 事費トハ此是混濁ナリ様全額判然區
 分相立整理百計置キ度旨大藏省ヨリ
 照會ノ趣ニ有之候事右様取計有之度
 就テハ經費法特見報告書ノ儀、前年
 度ヨリ繰越額ノ次、特別會計ヲ移積シ、
 區画ヲ設テ記入セラル度又該報告書中

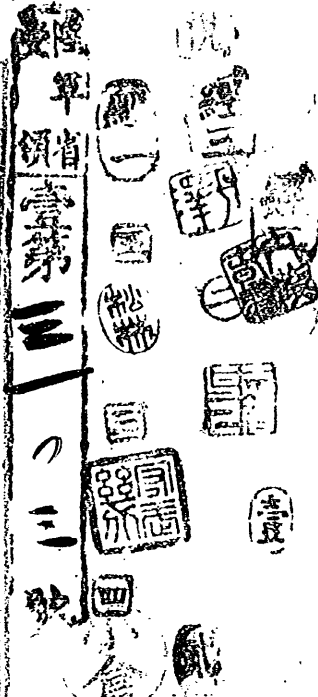
陸軍省

ノ仕掛命令済額ニ對シ特別會計より
 會計ノ移シレモ一係仕掛額ト同年度
 豫算ニ對シ仕掛額ト内譯書ヲ別ニ調
 製シ該報告書ト共ニ提出セラル度也
 通牒候也

追書前日

陸軍省 送乙第 三〇五八

八月四日



秘書 四九一

領省 第三一の三

臨時軍事費特種會計案出半 本年法
律第十号才三案才四案に據り支出未済
記録金額の明細廿九年一及一假會
計に移し先金額上同年度記録案に
於て決定之名臨時軍事費上の自ら
区別可有し我に付彼是之混淆也
様人多額取込は是の如き整理即記
算取半(多)比及中(少)也
明治廿九年六月了

森村五子費取込(國)武

陸軍受 七月廿四日

經二支受六月三日

馬老九

陸軍受六月三日

經二支受六月三日

醫六有十日

六月三日

經甲第八〇九號



1796

陸軍大臣侯爵大山巖殿

藏

省